



エネルギー施策の展開

- 地域のエネルギー需給状況の把握
- 地域単位でのエネルギーマネジメントの推進
- 電気自動車等による交通分野での低炭素化
- 工場廃熱や海洋エネルギー等の未利用エネルギーの活用及び熱利用のネットワーク化



環境・エネルギー産業の育成

- 各企業が持つ環境に寄与する技術や製品のマッチング
- 市内製造業者の方々の脱温暖化に資する技術・製品開発に対する支援
- ものづくり過程における省エネルギーの推進
- 新たな事業分野としての脱温暖化ビジネスへの取組を促進



環境啓発拠点の形成

- 市内大学と連携した環境教育事業
- 自然環境関連施設や社会インフラ環境施設の見学、視察などへの活用
- 環境啓発プログラムの展開

【用語解説】

エネルギーマネジメント……エネルギーの使用状況を把握することで、その利用の最適化を行い、長期にわたる省エネルギーを実現すること
 自然環境関連施設……自然環境の豊かな公園や緑地帯、海浜など
 社会インフラ環境施設……太陽光発電システムをはじめとした再生可能エネルギー設備や下水処理場などの環境に関する公共施設など
 環境啓発プログラム……横浜グリーンバレー環境マップ（仮称）や環境ポイントラリーなどの環境行動誘導策

横浜グリーンバレーを進めるにあたって



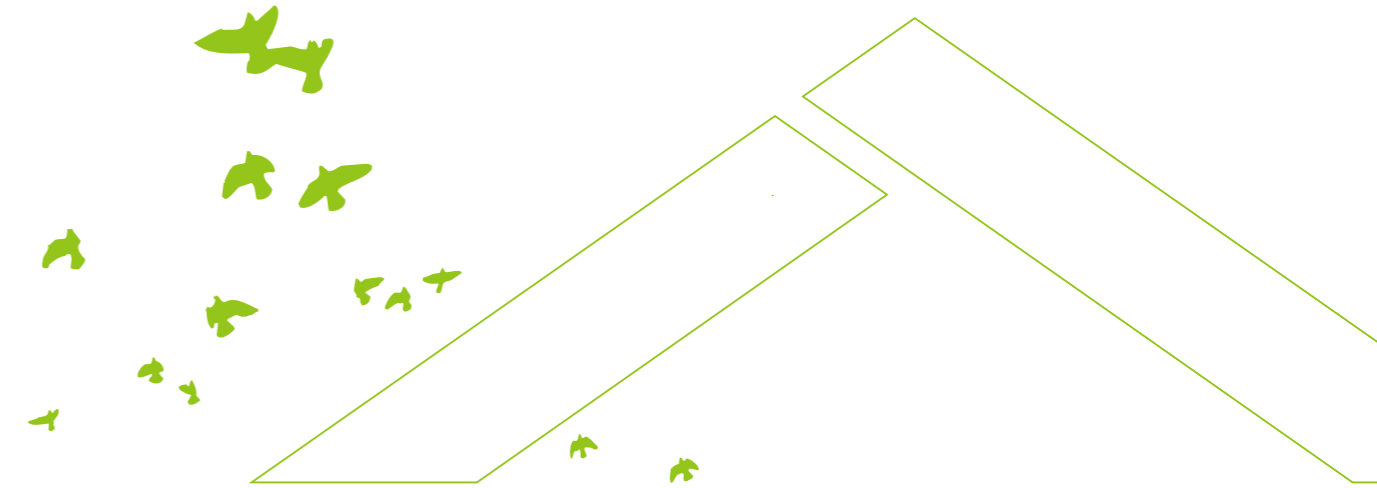
横浜市長 林 文子

横浜市では、市政の5つの方向性のひとつとして「環境問題への更なる取組を進める」ことを掲げています。その中で環境技術の研究開発と実用化については経済活性化につながるように取り組んでいくとお示しました。

その具体化の第一弾となるものが、この横浜グリーンバレー構想です。

地球温暖化が私たちにとって喫緊の課題となっている中、市民や事業者、大学の皆様、そして横浜市が、それぞれの優れたアイデアを出し合い、行動力を発揮することで、豊かな生活と新たなビジネスチャンスを生み出すことができると、私は信じています。

次世代を担う子どもたちに持続可能な地球環境を残し、環境ビジネスで日本と世界をリードする横浜を、この横浜グリーンバレーから創っていきます。



Yokohama Green Valley

横浜グリーンバレー構想

快適なエコ・ライフを実現する。
 新しい環境ビジネスが開花する。
 環境と生きる子どもたちを育成する。
 そんなプロジェクト、金沢区からはじめます。



横浜市の地球温暖化対策

横浜市は、温室効果ガス排出量を1990年比で2020年度までに25%、2050年度までに80%削減する、という高い目標を掲げ、地球温暖化対策に取り組んでいます。

また、「市民力」を活用した脱温暖化の大都市モデルの形成に向けた施策の展開に努めています。

横浜グリーンバレー構想とは

横浜グリーンバレー構想とは、横浜臨海部をモデルとして、市民の皆様と協働しながら「環境」を切り口とした産業の育成と環境教育の充実に取り組み、温室効果ガスの削減と経済活性化を飛躍的に進める構想です。

将来的には、本構想にて実践した取組を全市的に展開することで、横浜市が日本の低炭素型環境モデル都市として名実ともに認知されることを目指します。

モデル地区の金沢区

横浜市の中でも、住宅団地・産業団地・公共施設や緑・海など“横浜”の全ての要素がコンパクトに集まっている「金沢区」から取組に着手します。



誰もが住みたくなる 市民力と再生可能エネルギーを活用した 脱温暖化低炭素型モデル地域へ

海や緑、暮らしや産業といった横浜のすべてを凝縮した金沢区が、横浜グリーンバレーのモデル地域として動き出します。



横浜の
将来像

究極の
低炭素生活の実践

世界に求められる
環境・エネルギー産業の育成

日本を代表する
環境啓発拠点の形成

短期
2010~
2015年

・市民啓発と具体的事業の取組により省エネルギー行動と再生可能エネルギーの積極的導入が進む。

・企業連携や産学連携の事例が1~2つ成立し、部分的に環境ビジネスへの転換が生じる。

・市民を対象とした大学や民間企業による出前授業や社会科見学など、多様な環境啓発プログラムを産み出す。

中期
2016~
2024年

・部分的にはあるが、街区単位でエネルギーを相互利用するなどの取組が始まり、更なる低炭素化が進む。

・多数の連携事例が生じ、企業や大学が自主的・積極的に連携や協働を展開する。
・県外や外国からも注目されるエリアになり始める。

・子どもたちへの環境教育に加え、企業の視察なども行われることで、そこに住み・働く人たちの環境意識が高まり、さらに環境に良い活動が行われるようになる。

長期
2025~
2050年

・再生可能エネルギーが大幅に普及し、面的なエネルギーの相互利用が進むことで、エネルギーを地産地消する究極の低炭素地域となる。

・環境・エネルギー産業の一大拠点となるとともに、各企業が時代時代に応じた連携や事業転換を行うことで持続可能な発展を遂げる。

・国内外からの数多くの視察を受ける環境啓発拠点となる。
・横浜グリーンバレーでの成功を全市的に展開していくことで、すべての市民・事業者が環境意識の高い状態となる。